



國家圖書館編

東亞同文書院

中國調查手稿叢刊

200

國家圖書館出版社

六月三日

六月四日



國家圖書館編

東亞同文書院
中國調查手稿叢刊

200

國家圖書館出版社

第二〇〇冊目錄

昭和十八年（一九四三）調查報告（第四十期生）

崇明島蒐荷調查報告書（二）

崇明島物產集散調查報告書（二） 高遠三郎 一

崇明政治班（財政）

崇明政治班（財政） 笠川幸雄 四七

崇明班治安調查

崇明班治安調查 柿崎守悌 一〇一

崇明島の工業調査

崇明島の工業調査 小倉義信 一二五

常州の金融機關

常州の金融機構 本里明 一七九

江蘇省武進縣教育調查報告書

江蘇省武進縣教育調查報告書 立上良美 二三七

(武進)訓練、宣傳、出版物

(武進)訓練、宣傳、出版物 宮本幹男 三二三

武進班(宗教篇)

武進班(宗教篇) 工藤俊一 三四九

武進縣言語習俗調查報告

武進縣言語習俗調查報告 赤澤修二 三七七

(武進縣)人口、家族制度

(武進縣)人口、家族制度 向野貴文 四二七

武進縣に於ける統制經濟

武進縣的統制經濟 蒲池博

四五三

〔武進史地〕

〔武進史地〕 長島一夫

五三五

蘇北清鄉視察記

蘇北清鄉視察記 奥野珠雄

五六五

江蘇省海門縣言語調查報告

江蘇省海門縣語言調查報告 松尾長

五八五

海門班(金融)

海門班(金融) 上野肇 光安彦臣

六〇五

海門調查班(宣傳、訓練、出版物)

海門調查班(宣傳、訓練、出版物) 益田憲吉

六五五

海門に於ける蒐荷配給狀況

海門の物産集散和配給狀況

福島茂

松尾悦夫

.....

六八三

大嶺外調查報告書

崇明島菟荷調查報告書

昭和十八年六月上旬調查

學部二年 高遠三郎

崇明島蔥荷調查報告書

一、緒言

二、蔥荷機構

三、蔥荷經路及運輸手段

四、蔥荷量

五、蔥荷過程に於る品質價格の變化

六、蔥荷の障礙——主として棉花について——

七、非和平地區の蔥荷

一、緒言

本報告は本島より外部市場にむけ輸出される物資、殊にその主要生産物たる棉花、雑穀の菟荷を對象とする。本島内において、經濟的循環が完了される地場消費については、菟荷に関する限りに於て言及する。農産物の菟荷、換言すればその商品化の程度は、國民經濟の成立程度により、農民の通貨に對する慾求の程度により異なる。商品作物の選擇は農民の守舊性、自然的諸條件を除けば交換價值によつて定まる。故に價格統制がその作附面積及地場消費については菟荷に影響するのは當

然
で
あ
ろ

農村と都市との經濟的結合は近世以後の世界經濟の

徵
て
あり、
支那に於いて
も阿片戦争以來
各開港場を
通ず

る
外
國
勢
力
の
浸
透
に
よ
り
世
界
經
濟
の
一
環
と
な
る
こ
と
に
依

り、
か、
る
世界的
な大
勢を
免れ
る
こと
は
出来
な
か
つ
た。

經濟的大動脈たる長江一帯、殊に下流の江南地區に於て

て顯著であつた。
しがるに今次事^終以後、
この都市と農

村とは軍事的政治的社會的にその有機的聯繫を破壊され

經濟的
には、
再び
兩者
別々
の道
を歩
ま
んと
し
て
ゐ
る。
農民

は
自
ら
の
手
で
作
っ
た
食
糧
作
物
の
上
に
安
定
せ
る
封
建
的
別
天

と な さ れ た 。事 變 に よ つ て 破 壊 さ れ た 廢 墟 の 上 に 軍 の 絶	こ の 両 者 の 有 機 的 連 繫 を 復 活 す へ く 幾 多 の 試 み が 次 々	さ し め る 上 に 於 て 重 大 な る 障 碍 で あ る。	亜 戦 争 の 欠 く べ か ら さ る 兵 站 基 地 と し て 經 濟 的 協 力 を な	大 東 亞 共 榮 圈 建 設 に と つ て、さ し め に つ て は 目 下 の 大 東	は 支 那 が そ の 重 要 な る 一 環 と な つ て は じ め て 可 能 と な る	よ つ て 變 態 的 繁 榮 の 夢 を 貪 ほ る に 過 ぎ な い。か ゝ る 傾 向	枯 渴 に よ つ て 衰 微 し、只 過 去 の 蓄 積 さ れ た 商 品 の 投 機 に	愈 自 給 自 足 に 赴 く。都 市 に 於 て は 工 業 生 産 は 原 料 の 來 源	地 を つ く り、再 び 手 工 業 は 勃 興 し、商 品 作 物 は 減 少 し 愈
---	--	--	---	---	---	---	---	---	---

大なる庇護の下に獨占的に進出した邦人商社は、その一	方的意志の押賣の爲、又支那の政治的、軍事的、經濟的	諸條件に災されて、充分の成果を擧げることは出来な	つた。農村合作社も亦その関係者の努力にも拘らず、深	く農民に食ひ入る事が出来なかつた。見返り物資は度	度供給されにが、故障の生じたポンプにさしこまれに僅	かの <u>迎へ</u> 水の如く容易に地下水を汲出すことは出来な	つた。	農民の通貨に對する慾求と言はんよりは通貨に對する	信用は下落した。通貨の購買力は減少し、通貨に依つて
---------------------------	---------------------------	--------------------------	---------------------------	--------------------------	---------------------------	-----------------------------------	-----	--------------------------	---------------------------

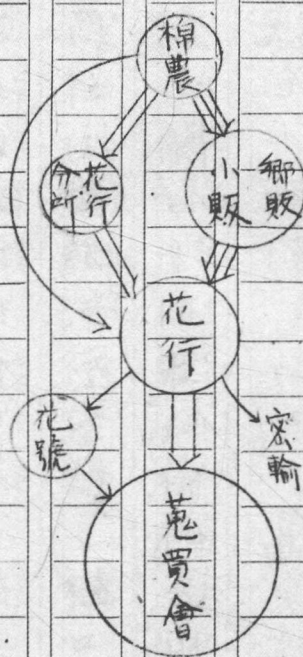
購入得らるべき商品は極度に欠乏した。金より物をの傾
 向は、都市に於ける以上に土の中の農民達の頭腦を支配
 した。棉花に對する統制價格の決定は、農民をして他の
 商品作物の栽培へと轉換せしめた。一般に江南の農民は
 打算的である。殊に崇明島は上海との經濟距離も近くそ
 の影響を受けること大である。故に作物の轉換に關して
 は北支の農民の如く鈍感ではない。自然條件に於いては
 棉花可作地はほぼ同時に大豆、包米（カウリ）の可作地である。島
 内と小車に揺られて行けば、包米大豆の畑が見渡す限り
 續いてゐる。路傍の農夫に聞けば昨年迄は棉花がオフト

多かつたといふことである。家々の軒端には菜種が干されてゐる。鎮で見學した油房では棉^実油をたいて發動機を迴轉してゐた。どの家でも古い棉繰りをフン／＼まわしてゐる老婆や娘と見掛けないことはない。

二、蒐買機構

棉花に就いて言へば、蘇州、無錫方面への戎克による密輸を除き、江北棉花蒐買會崇明支部に依り一元的に蒐買が行はれてゐる。物資移動制限撤廢以後も、棉花のみは一号物資と共に依然移動制限が行はれてゐるのじある。蒐買會出張所は島内各所の花行に對して前貸をなし、花

行は多く自らの分所或は郷販、小販を通じて棉農より苞
 買する。之を圖示すれば次の如くである。



花行は現在、大昌、徳昌、裕泰、同徳、合記、徳豊、和泰、大隆、公協、成
 常、大豊、協成、公森、大錦、福大、盛昌等二十七家である。花行と
 苞買會との間に大資本を有する花號が介在する二とがあ
 るが現在本島に於ては、花號は少い。棉農より花行